

## 台湾のヒメフユイチゴの学名

著者	鳴橋 直弘
著者別表示	Naruhashi Naohiro
雑誌名	植物地理・分類研究
巻	32
号	1
ページ	58-58
発行年	1984-07-15
URL	<a href="http://doi.org/10.24517/00056258">http://doi.org/10.24517/00056258</a>



- Nat. Ver. Bremen 4: 198 (1874); FOCKE in Biblioth. Bot. 17 (Heft 72): 26 (1910) — *Rubus triflorus* RICHARDS.  $\beta$  *japonicus* MAXIM. in Bull. Acad. Imp. Sci. St. Pétersb. 17: 149 (1872)  
Type: TSCHONOSKI 1864 from Fuji-yama in Japan.  
Holotype in LE, not seen. Isotype in B (Fig. 2), BM, K, & P, v. in hb.  
= *Rubus pseudojaponicus* KOIDZ. in Bot. Mag. Tokyo 25: 74 (1911)
- (3) *Rubus japonicus* VEITCH ex LINDL. et PAXT., Flow. Gard. 3: 163 (1853)  
Type: VEITCH, cultivated plant, origin from Japan.
- Lectotype (Fig. 3) and isolectotype (Fig. 4) in K, v. in hb.  
= *Rubus trifidus* THUNB., Fl. Jap. 217 (1784)
- (4) *Rubus japonicus* MAXIM. ex O. KTZE., Method. Rub. 130, 133, 143, 155, & 156 (1879); MATSUMURA in Bot. Mag. Tokyo 15: 155 (1901); KOIDZUMI in Bot. Mag. Tokyo 25: 74 (1911); KOIZUMI in Journ. Coll. Sci. Imp. Univ. Tokyo 34: 109 (1913); MAKINO, MAKINO's New Illustr. Fl. Jap. 263 (1965)  
Type: ? specimen from Japan in LE, not seen.  
= *Rubus ikenoensis* LÉVL. et VANT. in Bull. Soc. Bot. Fr. 53: 549 (1906)  
(Received Apr. 10, 1984)

## 鳴橋直弘：台湾のヒメフユイチゴの学名

## Naohiro NARUHASHI: On the Scientific Name of Hime-fuyuichigo or Yü-shan Raspberry from Taiwan

台湾の玉山（旧名新高山）をはじめ中央山脈の高所に分布し、イギリスではよく庭園に植栽され、我が国でも近年カバープランツとして栽培されているヒメフユイチゴ別名ニイタカイチゴは *Rubus calycinoides* HAYATA として日本、台湾、英国で知られている。

明治42年12月に中央山脈で森丑之助と加藤宗三によって採集された標本に早田文蔵は *Rubus calycinoides* の名前をつけた。その発表は *Icones Plantarum Formosanarum* 3巻88頁1913年である。

一方小泉源一は台湾を含む旧日本産のバラ科植物をまとめたとき、*R. calycinoides* HAYATA は未発表であった。彼はそれに記載をつけ、東京帝国大学理科大学紀要34巻154頁に発表したのは1913年であった。

学名には先取権があり、より早い有効名が正名となる。正確な出版の月日は不明であるが、我々はその出版物に記された年月日に頼るしかない。

小泉の発表は紀要の表紙から1913年10月28日である。早田の方は、その学名発表のある論文の序文では1913年3月31日に、Kakichi UCHIDA のことばは同年4月1日となっているが、その本の表紙に1913年12月25日と記されている。*Taxonomic Literature* 2巻108頁にも、早田の *Icones Plantarum Formosanarum* 3巻1-222頁は1913年12月25日となっている。

以上のことから、ヒメフユイチゴ(ニイタカイチゴ)の学名は、約2ヶ月早い小泉のものとなり、*R. calycinoides* HAYATA ex KOIDZUMI となる。しかし *calycinoides* という種小名 (epithet) は、O. KUNTZE が1879年にヒマラヤの植物で使用しているので、この名前は変更される必要がある。それで、早田と小泉両先生によってこの植物が世に出たことを記念して、種小名を *Hayata-Koidzumii* とした。

最後に、正基準標本を観察するのに便宜をはかっていただいた東京大学総合研究資料館の大場秀章氏に心より感謝いたします。

*Rubus Hayata-Koidzumii* NARUHASHI, nom. nov.

*R. calycinoides* HAYATA ex KOIDZUMI in Journ. Coll. Sci. Imp. Univ. Tokyo 34: 154, Oct. 28, 1913, non OK. 1879. Holotype: Mt. Morrison, U. MORI & S. KATO, Dec. 1909 (TI).

*R. calycinoides* HAYATA, Ic. Pl. Formos. 3: 88, Dec. 25, 1913, non OK. 1879. Holotype: Mt. Morrison, U. MORI & S. KATO, Dec. 1909 (TI).

Jap. name: Hime-fuyuichigo (KOIDZUMI 1913), Niitaka-itigo (KANEHIRA 1936)

Taiw. name: 玉山懸鈎子 (劉 1960)

Eng. name: Yü-shan Raspberry (LIU 1960)